

同 志 社 大 学

2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 3 月 25 日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	准教授	吉田 優子
研 究 題 目	石垣方言の音韻研究—子音軟化と母音の変化とアクセントの関連	
研 究 成 果 の 概 要	<p>伝統的な石垣方言の高母音の音価の変化と語彙アクセント、更には母音調和との関連を調べた。並行して共通語の2モーラ和語アクセントの特性について追及した。</p> <p>2007 年度と 2008 年度の石垣市四箇字での言語調査の結果、以前からの研究での予測どおり中舌高母音の消失が観察された。標準語への類推からの変化ではなく、方言内の他の母音や子音における音韻的性質から予想される変化であった。これに関連して 2008 年度末に収集した多大なデータの音韻・音響分析を 2012 年度少し進めることができた。今年度も引き続き分析を進めた。来年度にはアクセント位置との関連の究明を進めたい。</p> <p>□頭発表：“Vowels and Phonological Elements”, A Workshop on New Perspectives in Element Theory. 2013 年 8 月 20 日 於：札幌学院大学</p> <p>出版：『第三章日本語のアクセントと英語の強勢』「音韻論」朝倉日英対象言語学シリーズ3 三間英樹と共著 2014 年 3 月 20 日発行</p>	